

きみつのさんぽ道 ご利用案内

開園時間 10:00~16:00

入園料 無料

駐車場 あり

来園時は必ず事務所へお立ち寄りください。安全管理上、受付をお願いしています。
開園日および休園日、開園時間については都合により変更になることがあります。
なお、雨天時は休園いたします。

お問合せ TEL.0439-50-1700

FAX.0439-50-1705

E-mail kimitsu-sanpomichi@uchiyama-net.co.jp

住 所 千葉県君津市馬登677-1

内山緑地建設株式会社 君津事業所内

(樹芸林業試験場・君津グリーンセンター)

4 月 2022.			水	木	金	土
日	月	火			1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 月 2022.			水	木	金	土
日	月	火				
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

 休園日

① 東京湾展望広場



② 花逍遥の道 入口



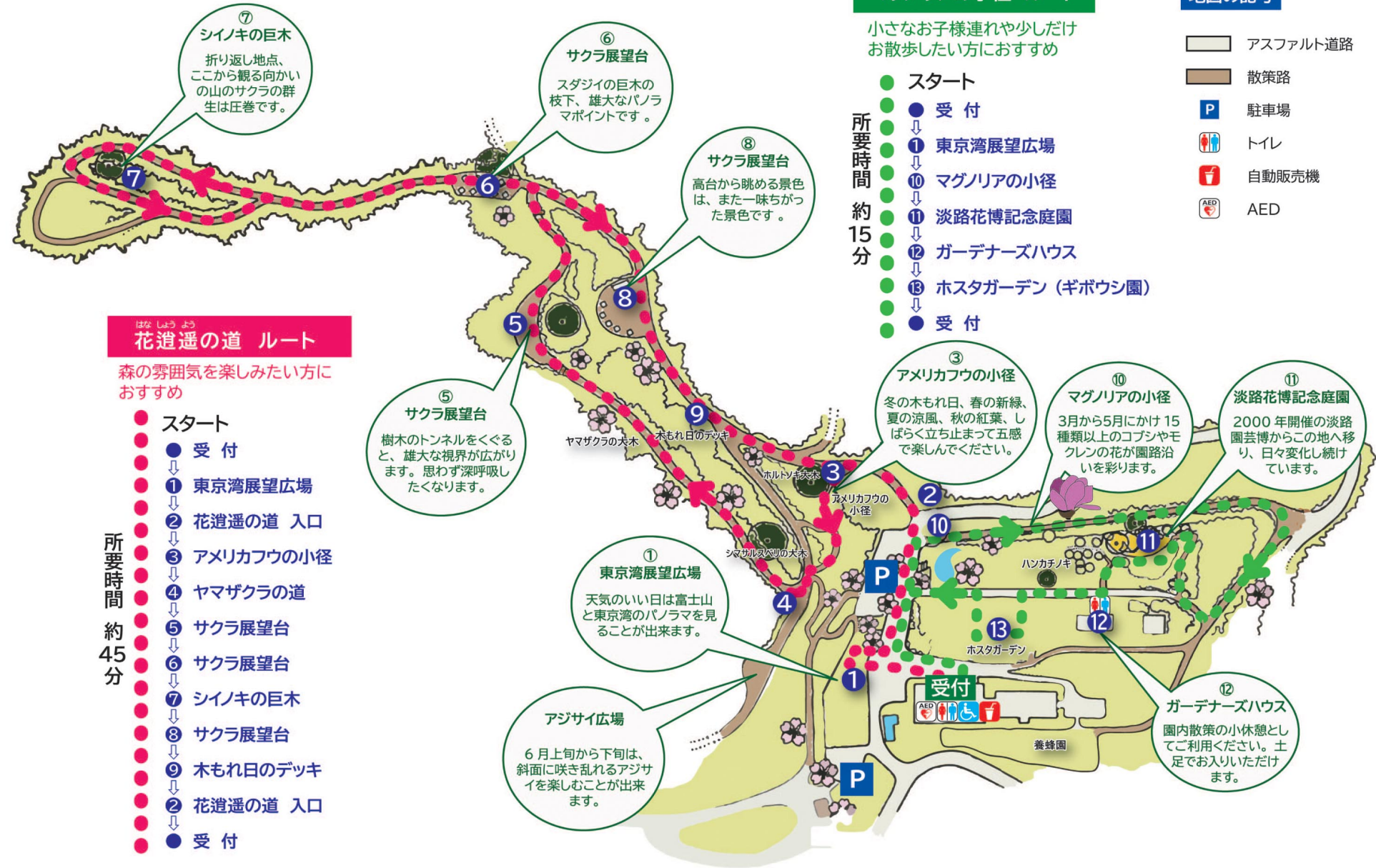
③ アメリカワウの小径



⑧ サクラ展望台



園内マップ



花逍遥の道 ルート

森の雰囲気を楽しみたい方におすすめ

- スタート
 - 受付
 - ① ↓ 東京湾展望広場
 - ② ↓ 花逍遥の道 入口
 - ③ ↓ アメリカワウの小径
 - ④ ↓ ヤマザクラの道
 - ⑤ ↓ サクラ展望台
 - ⑥ ↓ サクラ展望台
 - ⑦ ↓ シノキの巨木
 - ⑧ ↓ サクラ展望台
 - ⑨ ↓ 木もれ日のデッキ
 - ② ↓ 花逍遥の道 入口
 - 受付
- 所要時間 約 45分

マグノリアの小径 ルート

小さなお子様連れや少しだけお散歩したい方におすすめ

- スタート
 - 受付
 - ① ↓ 東京湾展望広場
 - ⑩ ↓ マグノリアの小径
 - ⑪ ↓ 淡路花博記念庭園
 - ⑫ ↓ ガーデナーズハウス
 - ⑬ ↓ ホスタガーデン (ギボウシ園)
 - 受付
- 所要時間 約 15分

地図の記号

- アスファルト道路
- 散策路
- P 駐車場
- トイレ
- 自動販売機
- AED

⑨ 木もれ日のデッキ



⑬ ホスタガーデン



富士山と東京湾



ハンカチノキ



4月下旬頃 開花

⑩ マグノリアの小径

マグノリアの小径の春はとても賑やかです

平成12年に整備されたこのルートには、約30種・60本のマグノリアやミケリアの品種が植栽されています。西日の当たらない北側斜面で成長を続け、毎年多くの花を咲かせています。早春にヘレボルス類が開花しはじめ、3月になると、足元からクロッカスやシラー、スイセンが顔を出します。3月下旬にはハナモモなどに続いてマグノリアが開花し、その後もカスミザクラやウワミズザクラが次々と咲き誇り、ミケリアは5月中旬頃まで楽しむことができます。

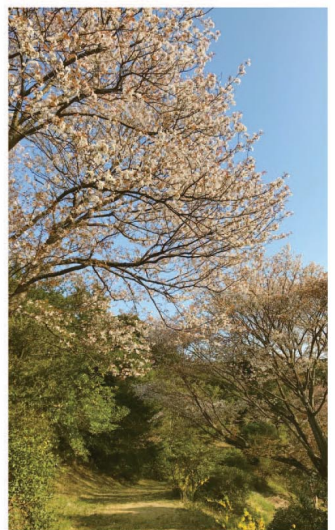


※マグノリア…モクレン科の総称。シモクレンやハクモクレン、タイサンボクなどがあり、いずれも香りのよい特徴的な花を咲かせます。

Magnolia 'Jane' Magnolia 'Vulcan' Magnolia cambellii 'Wada's memory' Magnolia cambellii

④ ヤマザクラの道

森林浴・四季折々の風景を堪能できる散策路です



植木生産管理用通路でありながら、四季を彩る桜やアメリカワウ、スタジイやコナラなどの巨樹が点在することから、散策ができる通路として整備をおこないました。森の中を歩くこと心身ともにリフレッシュする効果が科学的根拠に基づき明らかにされています。美しい風景を見ながら、土の感触を味わいながらの散策は心と体を充実させる、よいエクササイズではないでしょうか。もちろん、お気に入りのポイントでゆっくりと休憩したり、絵を描いたり、写真の撮影を楽しむこともOK! 思い思いのひと時をお過ごしください。

散策路沿いの樹木や草花には名札がついています。

ヤマザクラ
バラ科 黒いラベルが目印です!

⑪ 淡路花博記念庭園

ジャパンプローラ 2000 で出展された記念庭園です



2000年、淡路島で開催された国際園芸・造園博「ジャパンプローラ 2000」において出展された庭園を当社が引き取り、2001年4月、この場で復元されました。君津の豊かな自然を背景に、「ドライガーデン」・「メドウガーデン」・「ウォーターガーデン」の3つに分かれて構成され、それぞれの環境にあった適材適所の植物材料を和洋の区別なく植栽しています。日本人の感性になじむ風景構成を目指し、「自然と人工が無理なく融合する様子」を随所で見ることができます。